

SDGsを  
授業で学ぶ!

# 明治学院大学とSDGs

SDGsとは国連サミットで採択された持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)。17のゴール・169のターゲットにより、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指します。明治学院大学ではSDGsについて、さまざまな授業で学生たちが学んでいます。

## SDGsと ともに学ぶ 初めての「法学」



グローバル法学科 横浜キャンパス  
グローバル法入門1

鶴田 順准教授

グローバル法学科生が初めて接する「法学」への扉、それが「グローバル法入門」です。国際社会には、法的拘束力のある国際条約以外にも、さまざまな国際規範が存在します。世界人権宣言、環境と開発に関するリオ宣言など。そして、今もつとも関心を集めている国際規範がSDGsです。授業では、各自で関心があるSDGsのターゲットを選び、既存の国際条約との関係を整理し、検討します。その結果、関連する国際条約があっても実施が不十分など、国際社会が抱える問題状況が見えてきます。問題状況の改善・克服に、国際規範はいかなる役割を果たせるのか・果たせないのか。SDGsに関する調査と検討をきっかけに、大学での学びや研究のあり方をつかむ授業です。



関心あるターゲットを  
各自でチョイス

### 私にとってのSDGsと授業

**3年次ゼミでもSDGsを研究**  
佐藤友惟(グローバル法3年)

授業で国際社会の多様な主体について英語を交えて学びました。関心あるテーマについてまとめる課題でJICAとSDGsについて研究し、3年次ゼミでは「基礎教育の普及」の研究中です。

**プラスチック資源について卒業執筆中!**  
川島美希(グローバル法4年)

卒業論文でプラスチック資源に注目しています。日本の現行政策は世界的な資源情勢にふさわしい政策かどうかを問い、国内法・国際法を検討し、結論を導きたいと考えています。

## カンボジアでの教育支援を オンラインで実践



明石留美子 教授

社会福祉学科 白金キャンパス  
福祉開発  
フィールドワーク

二年次科目「福祉開発フィールドワーク」では、SDGsの目標四「質の高い教育をみんなに」を掲げて、カンボジアの子どもたちへの日本語などのオンライン国際授業に取り組んでいます。昨年度の「演習1」での取り組みを引き継ぎ、春学期に授業に向けた学習や準備を実施。一〇月から授業の予定でしたが、コロナ禍で現地では教室に集まらなくなっていました。そのため、学生

たちはスマホでの個人指導や公文式での学習方法の開発に着手し、今は模擬授業などで切磋琢磨しています。模擬授業は、グループ別にパワーポイントを作成し、子どもたちに語りかける形で行います。生徒の日本語力に差がある中で、日本語だけで話すか、クメール語や英語を取り入れるべきか、どういった表現がわかりやすいかなど、生徒役の学生や明石教授から活発な意見が飛び出しています。



模擬授業を  
しっかり練習!

### 私にとってのSDGsと授業

**大切な「学ぶ楽しさ」と「教える楽しさ」**  
平松 桂(社会福祉2年)

印象的だった「日本語を教えるだけで終わってほしくない」という明石先生の言葉。子どもたちに楽しく学んでもらい、SDGs達成に向けて努力します。教育の不等性について知らせる活動も続けます。



## 開発の視点から SDGsを考察する



頼 俊輔准教授

国際学科 横浜キャンパス  
国際学特講1  
(国際協力の現場)

SDGsについて大学生でもできるのが「エコバッグを使うこと」?それでは物足りない!と頼准教授は話します。大学の学びでは、SDGsの目標七「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」と目標二「気候変動に具体的な対策を」という二つの正しいことは同時に達成できるのか、また、なぜ一七個もの目標が必要になったのかなど、さまざまな視点からの考察や研究をすることが可能です。

開発の現場で起きている問題を、地域や国の文脈に即して考えることがこの授業の狙い。国際協力や開発の仕事は高い専門性を身につけるだけではなく、歴史・宗教・文化など多くのことを学ぶ必要があります。授業はJICA横浜の講師をはじめ、インフラ、環境中小企業、農業などの専門家によるリレー形式で行われます。連続講義から共通点が見出せた時、学びがさらに深まります。

## 身近な問題に 着目。足元から 関心を高める



藤川 賢教授

社会科学 白金キャンパス  
演習1

地域社会や環境に関心を持つ三年生が履修する藤川ゼミ。SDGsでは「誰一人取り残さない」ための目標と現実がかけ離れているとも思われがちです。身近なところからSDGsを学び感じるために、春学期に共同で調査を行いました。テーマは途上国、海洋プラスチック汚染、食品ロスなど。気になったことを調べつつ、身近な問題を認識してみんなで考えているうちに、次にできることがわかってきます。この小さなステップを日常生活の中で踏んで行けることが大切だと藤川教授は考えています。秋学期からはフィールドワークも積極的にいう方向で、動き出しました。フィールドで課題を発見し、自分の研究テーマを探ります。その発見をまたゼミで共有し、考えを深めていきます。



地域の活動について、  
プレゼンテーション



### 私にとってのSDGsと授業

#### 企業で異なる 食品ロスの現状

左: 中山日菜子(社会3年)  
右: 東野好花(社会3年)

私たちが調査したのは食品ロスについて。ゼミの履修者のアルバイト先でどれだけの食品ロスが出ているか聞いて現状を把握し、今後どのように食品ロス対策をすべきか話し合いました。

#### 無理なく対策を 行うためには

左: 坂下陽菜(社会3年)  
右: 服部悠汰(社会3年)

SDGsに関連する「食」や「移動」などの身近な領域に着目。先行研究や事例から検討し、気候変動や地球温暖化への対策を無理なくライフスタイルに組み込む必要性を感じました。

エネルギー政策について  
ディスカッション



### 私にとってのSDGsと授業

#### SDGsで意識する 世界とのつながり

マリック ジャイタ(国際3年)

農業やインフラなど開発現場での現状や課題を学んでいます。世界はお互いに支え合うことで成り立っているため、開発支援が必要です。SDGs達成への開発支援や活動について学びたいです。